

あなたの命を危うくすることに

実例多数　いまの薬から別の薬へ いいことだと思つたら大間違!

数値は確かに改善したが…

神奈川県在住の片岡義和さん（67歳・仮名、以下同）が糖尿病だと診断されたのは、2年前のこと。会社員時代から血糖値は高めだったが、定年退職後に外出や運動の機会が減ったためか、数値が上がりてしまった。以降、2カ月に一回ほどの頻度で自宅近くのクリニックに通い、DPP-4阻害薬のジャヌビア（一般名シタグリブチン、以下同）を処方され、飲んできた。

「ヘモグロビンA_{1c}の値は、7・5～7・8%ぐらいと、あまりよくありませんでした（正常値は6%未満）。ただ合併症も出ていませんでしたし、そこまで深刻には考えていなかつたのですが、妻が度々心配していました。それで、主治医に相談したところ『試しに別の薬にしてみますか？』と言われ、S_U剤のアマリール（グリメビリド）に切り替えることになつたんです」（片岡さん）

S_U剤を飲み始めたことで、確かに数値は改善しました。片岡さんのヘモグロビンA_{1c}の値は7%台前半に落ち着いた。しかし、日常的に低血糖症状に見舞われるようになり、頻繁に動悸がしたり冷汗が出たりするようになつた。それでも片岡さんはアマリールを飲み続けていたところ、とうとう1年前の冬、自宅で意識を失い、救急搬送されました。

「妻の目の前で倒れて、すぐに救急車で搬送されたので、大事には至りませんでした。ただ、運ばれた時の血糖値は30mg/dlほどだったようで（空腹時の標準値は110mg/dl未満）、医者から『亡くなつたり、脳に障害が残つてもおかしくなかつた』と言われ、ぞつとしました」（片岡さん）

「症状が良くなることはあつても、悪くなることはないのでは、そんな思いで、いま飲んでいる薬から別の薬に替えようと思ったことがある人も多いのではないか。しかし、そこには大きなリスクが潜んでいる。

特に注意が必要なのが、糖尿病治療薬。多摩ファミリークリニック院長の大橋博樹医師が解説する。

「高齢の糖尿病患者さんが、S_U剤に切り替えたところ、ふらついて転倒



するというケースが時々あります。SU剤はする臓を刺激して、糖を分解するインシュリンの分泌量を増やす薬です。安価で効果も出やすいとされていますが、効き目にかなり個人差があるので、低血糖のリスクが高く、救急搬送される事例もあります」

特に高齢者は自覚症状に乏しいため、転倒などのリスクが高まる。意識障害や昏睡など、ダイレクトに命に関わるような症状が出ることもあり、非常に危険だ。安易に薬を替えることは、これらのリスクを高めてしまう。

糖尿病治療薬と同様に降圧剤も薬を変更するリスクは高い。フルイトラント（トリクロルメチアジド）などの利尿剤を飲んでいた高齢者が、より降圧効果が高いとされるカルブロック（アゼルニジピン）などのカルシウム

なくてはいけません。ま
ずこれまで使つていた薬
に新規薬を上乗せしなが
ら量を半分にする、次に
4分の1にするという手
順を踏まなくては成功す
るという症状が出てしま
ません。いきなり変更す
ると全く眠れずに混乱す
るということがあります」（長尾
尾クリニツク院長の長尾
和宏医師）



上から米山公啓氏、大橋博樹氏、長尾和宏氏

いすれの疾患の治療薬でも、「新薬」には特に注意しなくてはならない。前出・大橋氏が話す。

「新しい薬というものは大きくプロモーションされるので、一気に服用される方が増えるのです。今年でいうと、インフルエンザ治療薬のゾフルーラーザ（パロキサビル マルボキシル）です。『1回の服用で治る夢の薬』という触れ込みで、いまゾフルーラーザを希望される患者さんが多い。ただ、いまのところ、タミフルより効くというデータはありませんし、安易に処方されると耐性化が進むという危惧もあります。実際に、国立感染症研究所などの調査で、昨年12月にゾフルーラーザによる治療を行つた児童2人から薬剤耐性ウイルスが見つかっています。

薬が導入されてから評価が定まるまで、やはり数年はかかります。結果的に本当にいい薬だったということも十分あると

ジエネリックに替えたらい

者さんであれば、無理矢理に基準値まで下げる必要はない。しかし、年齢などの差違を考えず、教科書通りに処方する医師も一部にいます。その結果、高齢の患者さんが低血压や低血糖でふらついで転倒する、運転中に事故を起こすといった事態を招くことがあるのです」
「薬を替えるリスクがあるのは、糖尿病、高血圧だけではない。

しまった。他にも『目が見えにくくなつた』『昼間、眠気が止まらなくなつた』など、多くの方が副作用を訴えていました。その

帶の結び方も忘れてしま
うような状態で、とても
性格まで変わった

にしたのです」(高
さんには着付けの指
している際にも頻繁
アリーを起こすよ
つたので、さすが
替えることにしま
今度はブレーキ系
リー(メマンチン
という薬にして
おかげで急に怒
のですが、逆にま
氣力で、何を聞い
返事。夜には徘徊

人や周囲が振り回されるばかりだ。

ベルソムラ（スポレキサント）という睡眠薬を服用していた60代の男性は、「もつと深く眠りたい」と医師に伝えたところ、ハルシオン（トリアゾラム）を処方された。すると、夢遊病のような症状が出てしまい、慌てて服用を止めたという事例もある。さらに睡眠薬の場合は、「替え方」にも注意しなくてはならない。「睡眠薬にはいくつかの系統があり、他系統にいきなり替えるのはダメで、必ず『のりしろ』を作ら

拮抗剤に替えたことで、めまい、ふらつき、転倒を起こす事例は後を絶たない。

に書いて部屋に貼るとい
う習慣を勧めたが、家中
が付箋だらけになつてし
まうような状態だつた。
会話や日常生活にも徐々
に支障が出るようになつ
たため、地元の総合病院
を受診したところ、「ア
ルツハイマー型認知症」
と診断される。

仕事になりませんでした。それでアリセプト（ドネペジル）という薬を飲むことになりました。少し症状が緩和され、なんとか仕事はできるぐらいに回復しましたが、劇的に良くなつたわけではありませんでした。それで、医師から勧められたイクセロンパツチ（リバスチグミン）という薬に替え

まで始めてしまったのであります。いま考えれば、最初のアリセプトのままにしておけばよかつたと思つています」（高野さん）アリセプトを含めて認知症が如実に回復する薬はいまだに開発されていない。効果が見られないからといって、いろいろ薬を試してみたところで、思いも寄らぬ副作用に本

逆流性食道炎で、タケプロン（ランソプラゾール）という薬を飲んでいた。ところが、こちらもジエネリックに替えた途端、全然効かなくなり、激し

もしかして劇的に症状がよくなるかもしれない、そんな甘い気持ちで安易に薬を替えると取り返しがつかない事態になる。その前に一度、立ち止まつてほしい。

遺される妻・夫・子のために、あなたが今やっておくこと

特別企画 横山やすし・丹波哲郎・浜田幸一・勝新太郎・立川談志・仰木彬 ほか

ハチャメチャだったけど、もう一度会いたい人を語り合おう

カラー 大人のカレー この50皿 热評 高橋真梨子「for you…」

袋とじ ブルック・シールズ「青い珊瑚礁」 フィービー・ケイツ「初体験」ほか

三日酔いが取れた! 青春のブロンド女優 ノーカット濡れ場20

新時代現刊周辺

バチが当たる……

盛田昭夫の作った「ソニー神社」が現経営陣に壊されるまで

医療大特集

特別定価480円

老親も
あなたも

真子

旅館も飛
役所・学校

初！超大型10連休 まと小室圭さん それでも二人 死んでからで、 その手続き、 なぜやつておかななかつたのか

**なぜやつておかなかつたのか
その手続き、**

老親が生きている間にこれだけ死後の手続きで嘆した人、失敗しない

死後の三編を一括して今朝日

この「しびれ」、この「むくみ」、この「かゆみ」
実は死の始まりです

見た目が悪いだけじゃない 下肢静脈瘤を放置していませんか?

糖尿病・脳梗塞・肝硬変の始まり 夜、足がつるのには理由がある

いまの薬から別の薬へあなたの命を危うくする
いいことだと思ったら、大間違いです

いまの薬から別の薬へ
いいことだと思ったら、大間違いです
あなたの命を危うくする